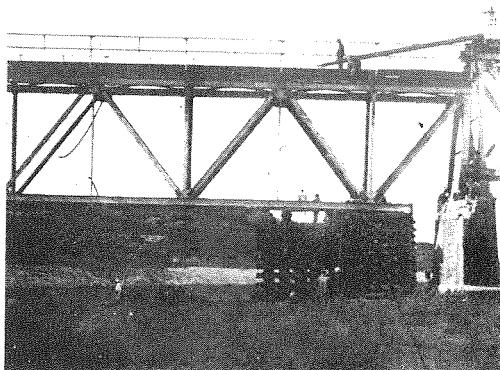
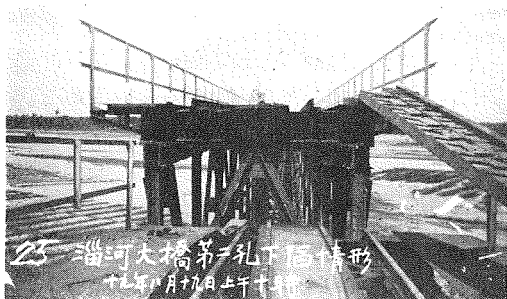
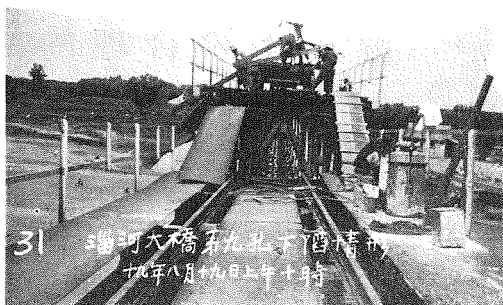
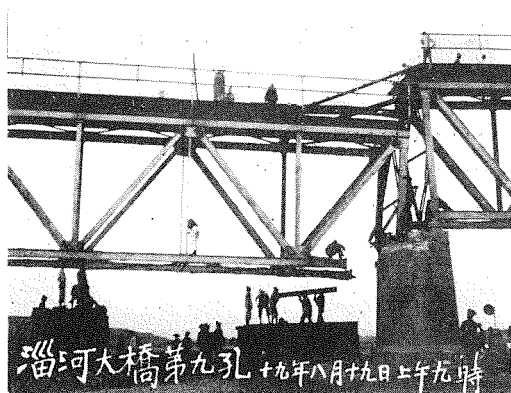


### 戦禍の支那より

(前略) 御承知の如く支那の内亂遂に戦禍我膠濟線に及び六月廿五日私の濟南出動以來十日許りは辛ふじて列車を通して居りましたが淄河鐵橋附近で山西軍と中央軍との戦争が開始され鐵砲玉の中へ列車は入れる事出来ず七月六日にはトゥ〜不通にしてしまひました。其間或は談判に或は時間を限りての通車會議に種々骨を折つて見ましたが結局東西兩部に分れての運轉、然し七月末の山西軍總攻撃が功を奏すると思ひの外遂に中央軍の援兵で濟南は奪回され六月以前の狀態にもどりました、南軍敗退の時敵の退路を斷つ爲橋梁を少からず痛めました其中の二三の例を寫眞にしてお目に懸けます。私は七月十一日に一旦





八月三十日

加賀山學

青島に歸りましたが、又十八日に濟南に參り  
 愈二十日より全線假工事の下に復舊運轉をさ  
 せる事になりました東海道の震災後の事も思  
 ひ出されて又々戦後の一仕事かと奮闘致して  
 居ります。寫眞に一夕説明を書いて居る閑が  
 なく御許し下さい。主としてダイナマイトで  
 コッシ又は砲丸の命中によつて破壊されたも  
 のです復舊は今工務所長が計畫して居ります  
 百萬圓もかゝるでせう。青島のよい夏を今年  
 は濟南の酷暑、兩軍懸馬の中に入り少し身體  
 を疲らしたので今靜かに休んで居ります。戦  
 後の本鐵路の經營も相當骨が折れませう。シ  
 ッカリ考へてやつて見ませう。取急ぎますか  
 ら唯一筆丈で御挨拶傍近況御報申上ます。

